インタビュー

チリ新自由主義のレクイエム?:
共産党ダニエル・ハドゥエ全国指導部員

前書き

2021 年 *11* 月 *19* 日のチリ大統領選挙（決戦投票）を前に、*ALAI* がおこなったチリ共産党のダニエル・ハドゥエ全国指導者とのインタビューです、ハドゥエ氏は首都サンチャゴのレコレタ区の区長で、左派の予備選挙でボリック候補と争いました。

ハドゥエ氏は、左派のゆきすぎた組織政党化を批判している。敏腕マネージャーでありながら、新自由主義の効率至上主義に異議を唱える。

100 周年記念をむかえるチリ共産党のリーダーであり、2019 年 10 月の暴発（地下鉄料金値上げへの大衆抗議）で始まった社会変革のとの対話の道を開いた。区長であり建築家、社会学者、アナリスト、貪欲な読書家でもある。フリーメーソン、パレスチナ人の子孫、禁酒主義者で水泳選手。

大統領選挙の候補者をきめる左派連合の予備選挙では、ガブリエル・ボリック氏に敗れが、選挙戦ではボリック候補を支えて積極的に行動している。既成左翼と右翼の過ちや、歴史的なチャンス、国内の問題や国際的なジレンマについて、彼は次のように語った。

Q（リバラ・ラウタロ記者）　ピノチェトが亡くなって 15 年たちますが、2019 年の大規模な大衆行動を引き金に大きな変革の流れがおきています。そのなかでピノチェトのイデオロギーの強さや相対的弱さをどう考えますか。

ダニエル・ハドゥエ　ピノチェト主義は間違いなく消えていくでしょう。いまも影響力は低下しつつあります。選挙の結果がどうなろうと、そうなると思います。彼が導入した新自由主義の恩恵を受けている人たち、つまり大企業や民営化された企業を引き継いだ家族たちのなかには、無条件の固い支持層がありますが、右派勢力のなかにもピノチェトを拒否する人たちが出現しているのです。

ピノチェト勢力は不当な手段で資金を集め、政治システムを維持し、メディアや世論調査機関を所有して、影響力と上からの件権力を行使しています。しかし全体を見れば、ピノチェトの影響力が大幅に低下していることは間違いありません。

Ｑ　世界をみるとブラジルや米国、ハンガリー、インドなどいろいろな国でウルトラ新自由主義的と右翼勢力の台頭があります。いまあなた方が参加している左派連合は、対立候補の共和党ホセ・アントニオ・カスト候補についてどう分析されていますか。彼を支持するピノチェト主義の力はどのくらいで、新しい右翼はどのくらいいるのでしょうか。

ハドゥエ　右派勢力の台頭は（左派の停滞との）コインの裏表です。まず左派はあまりにも組織化され、体制化してしまった。それによって社会的なベース、つまり大衆的なパワーから離れてしまいました。私たちはそういう自己批判をしています。これは最近の動きですが、その間隙に人民の不満がはいりこみ、人々は悪いのは「継続」だ、「継続」に似たものはすべて悪いと考えるようになりました。そのために左派の政策は社会の多数派からみると魅力のないものになってしまいます。

一方、右派をみるとカスト候補の政策はピノチェトよりさらに右です。ピノチェトもあえてしなかったような発言や提案をしていました。ピノチェトは 17 年間の独裁の期間、銅開発の国営企業であるコデルコの民営化や給料の民間ベース化まではしませんでした。ところがカスト候補はいま、これを提案しています。ですから銅の国有化に賛成している伝統的な右派ブロックとも矛盾をきたしています。

同じことは女性の問題でもおこっています。妊娠中絶を再び犯罪にするとか、世帯主が女性の家庭への補助金を廃止するとか、既婚女性への補助の制限だとか、嫡出子と非嫡出子の差別などの提案はまったくグロテスクでピノチェトよりも保守的です。ところがこれらは極右に近づいたキリスト教民主主義（ＣＤ）など中道の保守勢力から支持されています。

Ｑ　憲法改定のプロセスと選挙運動での多数派形成、あるいは政党と大衆行動の間の調整はどのようにしていくのですか。

ハドゥエ　選挙戦の論争にみられるように、チリ社会に政治変化への非常に深いプロセスが進行しています。まず 2019 年１０月 18 日の大衆行動で 2 種類の危機が発生しました。30 年間蓄積された社会経済危機が爆発し、政治的、制度的危機を引き起こしました。このうち政治危機は、新憲法の制定が 80%の支持を得て承認され、制憲議会の選挙がおこなわれることによって出口がみつかりました。

しかし社会経済危機は全く解決策がありません。政治危機を引き起こした社会的、経済的要求についての進展はないのです。これは危機に対応できないシステム全体に疑問を投げかけました。例えば、キリスト教民主主義（ＤＣ）と「コンセルタシオン」という中道勢力の候補者を見れば明らかです。ヤスナ・プロボステ候補は長い間上院議長を務めていますが、超富裕層への課税や天然資源のロイヤリティ、性暴力や恩赦法など、いま市民の強い要求がある問題への法整備は、まったくすすんでいないのです。

したがって、システム全体が根本的に（国民に）拒絶されているのです。政治の活性化のプロセスは継続していますが、一進一退があります。憲法制定会議では「人民リスト」の勢力が（議論を）前進させました。しかしいろいろなミスでまた後退させられました。30 年間の政治参加を拒否されてきたのですから、他の有力政治家たちに一瞬で変わってもらいたいと思ったときにおこるジレンマです。

これは非常に複雑なプロセスです。これまで選挙に参加しても（変革）が否定されるので、参加はよそうとよびかけてきたのに、突然、参加を呼び掛けることなになったのですから、支持者たちとの間で矛盾がおきるはあたり前です。このプロセスが本当に作動するには、選挙参加についての訴えを深く変えていかなければならないのです。

Ｑ　最新の世論調査だとボリック候補とカスト候補の両極対立になっていますね。与党の公式候補セバスティアン・シシェルは崩壊です。この状況をどうみますか、選挙ではピノチェト主義に政治的死を宣告するでしょうか。

ハドゥエ　与党系（右派連合）は有力候補がなかなかきまりません。最近でてきたシチェル「候補」は彼に近い世論調査機関が人工的に入れたものです。最終版になって与党系のラビン候補支持が減少してきたので、他の候補者をだして支持を水増ししたのです。それが唯一の生き残る道だと考えました。その通りに最初は与党支持がちょっと膨らみましたが、持続しませんでした。

こういうやり方はうまく行くはずがなく、（公正な選挙という点からも）問題です。ラビン候補はコロナ禍の中で社会開発大臣を務め、対策が不十分で後手後手になった政府の責任者の一人です。そのうえ彼が国立銀行の総裁時代には中小企業への支援は何もしなかったことが明らかになって、支持が低下したのです。

それで支配層は右派のカストに移行したのです。しかし彼に大きな支持の伸びはありません。シチェルが減った分増えているだけです。この傾向は顕著で、どの世論調査をみてもあきらかです。各種調査の平均をみれば両極化はありません。むしろ右派のなかに支持離れがあります。そして、カスト候補の政策はどこからみても受け入れられるものではないからです。これにたいし左派のボリック候補には、第一回投票で４位、５位、６位に入った人が決戦投票でカスト支持には回らないという期待があります。彼の勝利は圧倒的になるでしょう。

Q　先住民族についてお聞きしたいと思います。先住民としての権利と土地の回復を求めるマプチェの人々の闘いは、新自由主義にたいする抵抗の象徴とにもなっています。これらの問題はどのように解決できるでしょうか。

ハドゥエ　私はあえて解決について話しません。私がむしろ話したいのは、憲法上の議論に基づいて、新しい国家のアイデンティティを見つけ出す必要性です。これはむしろ新しい多民族、異文化、多言語のアイデンティティになるでしょう。

この新しいアイデンティティが生まれれば、過去にあった民族が多民族主義の基礎の構成要素にならなければなりません。これは、国家と先住民の人々との関係全体、土地保有に関する歴史的債務の支払い、自治のレベル、および歴史の完全な見直しを経る複雑なプロセスになるでしょう。私たちは、各地にあるすべての公共の広場や街路から、先住民への大量虐殺に敬意を払うような記念碑をすべて撤去するところまでやらなければならないと思います。

やるべきことはたくさんあります。新憲法からチリの方向転換です。そして、この方向転換は、スペイン人の到着前にこの土地に住んでいた人々との信頼と兄弟愛の絆に行くためのものです。私たちは、先住民を自分の土地に暮らす外国人として扱うのをやめ、新しい国家の出現によって、ジェノサイドや搾取、略奪の関係にあった先住民との関係を再構築していくのです。

学ばなければならないことは一つや 2 つでなく、多くの賠償措置、異文化の組み込みの程度を学ばなければなりません。そして先住民が相互にもっている司法制度を分析し、国家防衛評議会や最高裁判所、地方議会で先住民に一定の議席を割り当てて、先住民が自分たちの世界観に従って問題を解決する方法を研究する必要があります。

コルテスと地域議会と評議会で。新しい多民族、異文化、多言語のアイデンティティを構築するこのプロセスは短期間ではおわらないでしょう。しかしカスト候補が勝てば、何も起こらないことはあきらかです。

Q　アルゼンチンやボリビアのような近隣の国の進歩的な政府との連携する可能性はあるのでしょうか。また米国からのけ者にされているベネズエラやキューバ、ニカラグアとの関係はどうでしょうか。

ハドゥエ　まず政府間の外交関係は大統領、この場合はボリック氏の専権事項です。とはいえ対外政策に違いがあってはならないというわけではありません。（ボリック氏と共産党などとの）違いは、世界中の人権侵害に必要な

非難をおこなうということが中心ではありません。根本的な違いは、将来の政府が米政策に追従して、（外国への）介入作戦に加担したり、クーデターを後押ししたり、米国と関係のない政府の転覆を促進するかどうか、という点にあります。

少なくともチリ共産党は決してそういう政策に加担することはありません。人権侵害を非難し、国際的な尊重と権力の分立を求めていきます。しかし我々は統一戦線の政府が、これまでの政府が何度かやってきたように一線を越えて、他国のクーデターを促進したり、議会の閉鎖を承認して独裁政権の設置を促進するようなことのないように望みます。

Q　あなた大差をつけてレコレタの区長に再選されましたが、それを超えて政府のなかで役割を果たすことがあるでしょうか。

ハドゥエ　近い将来の私の役割は明確です。私は引き続きレコレタ区長であり、少なくとも次期党大会で誰かがきまるまで、共産党の全国指導部の一員であり続けます。次の政府にはもちろん協力しますが、地元では地方政府や自治体の強化を引き続き強く求めます。さらに、政府への直接参加は、今のところ計画にありません。

（以上）

（ALAI　2021 年 11 月 17 日から）

【翻訳　田中靖宏】